

# 学校教育における人権教育編

実 践 事 例

藤沢小学校

# 藤沢小学校の人権教育

入間市立藤沢小学校

## 1 はじめに

本校は、明治6年に開校し、今年で開校135年を迎えた。毎年、児童は10以上の幼稚園、保育園等から入学し、新しい人間関係を構築しながら学校生活を始めている。

本市の教育行政の特色の一つである小中一貫教育については、藤沢地区8校で連携を取り合いながら継続して取り組んでいる。また児童同士で協働し、探求していく力を高めるため、「学び合い」についての学校研究も開始している。

## 2 本校の人権教育計画について

### (1) 学校教育目標

「かしこく やさしく たくましく」

### (2) 目指す学校像

「子供の笑顔と教師の姿勢から信頼を得る学校」

ふるさと入間を愛し、地域に根付いた豊かな人間性を培い、「入間市、藤沢小が大好き」な子供たちを育成し、これまでの藤沢小のよき伝統・校風を基盤にした「継承」と時代を踏まえ「発展」「変革」していく学校づくりを推進していく。

#### ① 子供の笑顔

- ・子供・教職員・保護者・地域が「笑顔」で結ばれ、信頼しあえる学校  
(藤沢小に通わせてよかった)
- ・学ぶ喜びを味わえる学校(確かな学力)
- ・やり抜く喜びのある学校(できた喜び、感動)

#### ② 教師の姿勢

- ・教科指導 (主体的・対話的で深い学び)
- ・聴く力 (子供の声、保護者の声)
- ・対応する力(積極的生徒指導、初期対応、組織対応)

### (3) 目指す子ども像

「気づき・考え・進んで実行できる子」

- ・気づき…「道徳性」を持って気づく子
- ・考え…「思考力・判断力・表現力等」を使って活動できる子
- ・進んで…「主体性」を持ち、探求できる子
- ・実行…「知識・理解」を習得し活用できる子

### (4) 人権教育目標

「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする子を育てる」

- ・全教育活動を通じた人権教育の推進
- ・指導法の工夫
- ・人権を尊重し合う学級集団の育成
- ・指導法の改善
- ・生徒指導体制の確立
- ・教育指導体制の充実



### 3 本年度の取組

#### (1)人権アンケートの実施

- ①目的……………藤沢小学校いじめ防止基本方針より、いじめの実態把握のために学校生活を含めたいじめに関するアンケートを「人権アンケート」として行い、いじめの未然防止、早期発見・対応や人権に基づいたいじめに対する理解を深めさせ、児童が安心して学校生活を送れるようにする。

	1	2	3	4
1. 最近いじめやいじめの兆候はありますか。				
2. 最近いじめやいじめの兆候はありますか。				
3. 最近いじめやいじめの兆候はありますか。				
4. 最近いじめやいじめの兆候はありますか。				

- ②実施時期…各学期1回(5月・11月・2月)

- ③場所……………藤沢小学校

- ④対象……………藤沢小学校児童

- ⑤内容……………学校へ来ることは楽しいか、いじめを受けていないか、悩んでいる

ことはないかななどの項目について回答を選択する形でアンケートを実施する。アンケート内容に1つでも「ある」と答えた場合は、早急に担任等が児童に聞き取りを行い、組織的に対応していく。

各学期でこのアンケートを行うにあたり、「いじめ」と「人権」にどのような関連があるのか。また、いじめによりどのようなことが起こるのかを発達段階に応じて指導している。さらにアンケートを通して、いじめが絶対に許されない行為であるとともに、見つけたらすぐに報告することが大切であることも意識させていく。

本年度のアンケート結果では、「他者からからかわれた」、「悪口を言われた」等の回答が見られた。すぐに担任を中心に対応し、現在も継続的に見守りを続けている。また、「いじめられている人」、「困っている人」についての記述も見られ、児童のいじめを絶対に許さない、見逃さない意識が高まってきていると感じた。

#### (2)Q-Uテストの実施

本校では、人権アンケートに加えてQ-Uテストを実施している。Q-Uテストとは、『楽しい学校生活を送るためのアンケート』のことで、日本テストスタンダード委員会の審査基準を満たした標準化された心理テストのことである。日頃の学級集団の状況で、①学級満足度尺度「いごちのよいクラスにするためのアンケート」と②学校生活意欲尺度「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」の2つの心理テストから構成されている。

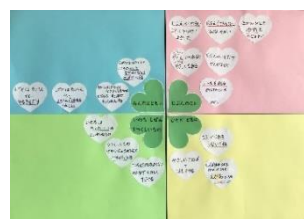


年2回(6月・11月)実施し、結果から児童の実態把握と支援策を教職員一同で考えている。人権が尊重され、安心して過ごすことができる学級づくりのために活用している。

#### (3)道徳教育の充実

児童の人権意識を高めるために、道徳授業の充実を図っている。「特別の教科道徳」の開始に合わせて授業方法や教材研究、評価についての研修を行い、授業の質を高めるようにした。授業形態も、従来の前向きの座席だけでなく、コの字型や小グループ型など、ねらいに応じて変え、児童の考えが交流しやすいように工夫した。

この工夫により、児童が人権の大切さに気づく場面が授業中見られるようになった。また、教室に道徳コーナーを設け、学習のふりかえりや学習内容に関連した掲示をした。掲示内容が日常的に児童の目に触れることで、人権意識を高める助けになっている。



また、人権尊重の内容について、映像教材(DVD)の活用を図った。道徳科の授業や学級活動の時間で活用し、児童の人権意識を高めることができた。

#### (4)小中一貫教育を活かした人権教育

本校は、藤沢中学校、向原中学校に分かれて進学する児童が大部分を占め、計画的に交流を行いながら、小中一貫教育の視点から人権教育にも努めている。

##### ①目指す児童生徒像

「自ら学び、共に伸びる心豊かな子ども」

##### ②指針

- ・よりよい人間関係づくりと学力の向上を通し、児童生徒の豊かな人間性の育成を図る。
- ・9年間の成長を見据えた教育を通して児童生徒の見方を深めるとともに、情報交換をはじめとした教職員の交流により、教職員間の人間関係づくりも行う。

##### ③小中一貫教育の行事

実施内容	概要	実施時期
1 あいさつ運動	中学生と教職員が登校してくる児童と挨拶を交わし、見守られているという安心感を醸成する。	6,9,3月
2 小中連絡会	6月に中学校、1月に小学校で実施。児童生徒の様子を見て、情報を共有する。	6,1月
3 合同研修会	小・中学校の教職員が情報交換や指導法の交流を行う。	8月
4 歌声交歓会	中学校合唱コンクールで上位入賞した3年生のクラスが、小学校高学年に合唱を披露する。	11月
5 中学2年生 職場体験	小学校を希望した中学校2年生が小学生の学習・生活支援を行う。	11月
6 1日入学	6年生が中学校体験入学をし、授業を受ける。 中学生が中学校生活について説明をする。	2月
7 部活動体験	6年生が、興味のある部活動の体験を行う。	2月
8 小学校卒業式	中学校生徒会が小学校へ祝電を送る。	3月

上記の取組は、主に小学校6年生の中学校入学時における不安感を減らし、中1ギャップを緩和することを目的に実施している。

この活動により、小学校から中学校に進学する際の見通しをもたせることで、入学前の不安感を減らし、早い時期から充実した学校生活が送れるようになったと感じる児童が多くなっている。

## (5)人権作文

児童の人権に関わる経験を作文にすることで、児童の人権意識を高めるために毎年実施している。

人権作文を書くにあたり、以下のことを事前指導で行った。

- ・道徳授業で取り上げた人権に関わる内容
- ・現在も残る様々な差別について
- ・人権作文集「はばたき」で取り上げられている内容 等

これらを児童自身の経験と関連づけて取り組ませることで、人権意識の向上につながることができた。

## (6)人権標語

児童の人権に対する思いや考えを標語にまとめさせた。「人権」という言葉を使うと難しくとらえる児童がいると考えられたため、「あいさつ」「感謝の言葉」「いじめ」等、児童に身近な言葉を取り上げるとともに、昨年度までに児童が作った人権標語も紹介し取り組ませた。本取組を通して、児童の人権に対する思いや考えを目に見える形にすることができた。

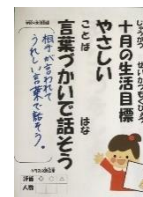
- 【今年度の標語】
- ・手を出して それはみんなを 助ける手
  - ・かんがえよ 言っているのか？ その言葉

## (7)人権の花

緑化委員会の児童を中心に取り組んだ。委員会の時間を使い、児童一人一人が大切に花を植えていくことができた。取り組んでいく中で、児童は思いやりの心や協力することの大切さを学ぶことができた。また、花を植えた後は、毎日休み時間に水やりや除草作業を行っている。これらの活動を通して、生命を大切にする心を養うことができた。

## (8)生活目標

本校では毎月の生活目標を「あいさつをしよう」「やさしい言葉づかいで話そう」「時刻を守ろう」「安全にすごそう」の4つに絞って設定している。



その中で人権を尊重し、誰に対しても優しく親切にする児童を育てるために「あいさつをしよう」を4, 9, 1月に、「やさしい言葉づかいで話そう」を5, 10, 2月に取り上げ、重点的に児童の意識啓発を行っている。

生活目標に主体的に取り組む児童を育てるために、生活目標から、より具体的な内容の目標を学級ごとに担任と児童で決めることで、より主体的に人権を守る行動をとることができるようにしている。また、月の終わりには生活目標、学級ごとに立てた目標についてふりかえる時間を設けて、人権意識の定着を図っている。

さらに今年度は委員会活動として、「ふわふわ(優しい)言葉」や「言われて嬉しい言葉」を全校に募集し、ランキングにして発表した。児童たちによりよい言葉を意識させることができた。

## (9)人権コーナー

全校児童の目に触れやすい通路に人権コーナーを設置している。児童の人権意識を高めるねらいの詩を掲示したり、人権に関わる掲示を行ったりしている。



## 4 成果と課題

### (1)成果

人権アンケートを定期的実施することで、児童の困り感を早期に発見することができた。いじめのない、安心して過ごすことができる学級づくりにアンケートを活用することができた。

Q-U テストは研修時間を設け、結果を分析し対応策を考えることができた。児童の実態を数値で把握することで、より具体的な支援策を考えることができた。

小中一貫教育に関わる活動は、縮小されていた内容が少しずつ戻り、充実した内容とすることができた。中学校1日入学で中学校生活に期待する様子が見られた。また、小中連絡会では、進学予定の児童や、進学後の生徒の様子を共有し早期の対応をすることができている。今後も小中のギャップを小さくすることで、安心して期待感を持って中学校生活をスタートできるようにしたい。



毎年行っている人権作文や人権標語、人権の花といった活動は、事前・事後指導をしっかりと行い、児童の人権意識を高めることができた。



生活目標についても、全校で足並みをそろえて取り組むことができた。毎月の取り組み内容の確認と実施、ふりかえりを確実にし、児童の人権意識を高める活動としていきたい。人権コーナーは人権に関する新しい情報を周知することができるよう、これからも工夫をしていきたい。

### (2)課題

今年度は、コロナウイルス感染症対策が5類へ移行され、充実した活動を行うことができた。その中で、人権教育をより充実させていくために、専門家を招き教員対象の研修をすることや児童対象の講演会等を行うことで、教員が新たな知識や指導法を学び、児童の人権に対する意識や知識を深めることができると考える。さらに、情報化が進む中で新たな人権問題も出てきている。それらの問題について教員と児童と一緒に考えていくことで、さらに人権意識を高めることができるようにしたい。また、本校で研究を進めている学び合い学習は、児童の協働を通じた学びの深化をねらいとしており、協力して課題に取り組む中で人権意識を高めていくことができると考えている。今年度まで継続して実施している人権に関わる活動と合わせて充実させていきたい。

教員が児童一人一人を大切にすることをもち、日々研修に努め、更なる人権教育の充実に取り組んでいきたい。